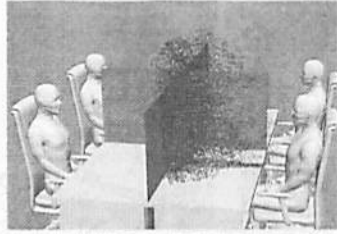


8月25日(火)
神戸新聞分

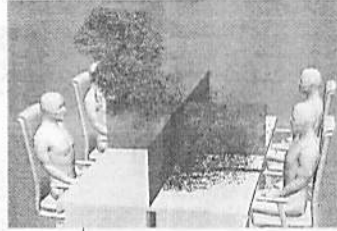
新型コロナ 飛沫拡散対策

布マスクでも7割抑制 間仕切り高さ約1.4メートルが最適

新型コロナウイルスの感染拡大防止に役立てるため、スーパーコンピュータ「富岳」を使って、さまざまな飛沫経路シミュレーション（予測）をしている理学研究所（理研）などは24日、中間報告を行った。素材の異なるマスクの性能を比較した結果、手作り布マスクでも、排出ウイルスの7割程度を抑え込む飛沫拡散防止効果があるとした。



高さ1.4メートルの場合



高さ1.2メートルの場合

（上杉順子）

富岳は神戸・ポートアイランドに整備中で、2021年度に本格運用が始まる。同シミュレーションは、理研が富岳を優先提供するコロナ関連研究の一環。理研計算科学研究センターの坪倉誠チームリーダー（神戸大教授）らがさまざまな

間仕切りを設置したオフィスの予測。高さ1.2メートルでは飛沫が向かい側の席まで広がっている（いずれも提供＝理研、豊橋技術大。協力＝京工繊大、阪大）

スパコン富岳 予測

布マスクも十分効果がある。一定の換気がされた空間でエアコンを使うと換気効果が上がる。教室で対角にある窓や扉を開けると、エアコン効率をあまり落とさず換気できる。オフィスの間仕切りは床から1.4メートルの高さが適切

う結果に。布マスクは不織布より少し劣るものの、ポリエステルで約8割、綿でも約7割の飛沫をキャッチした。マスクを着けると、飛沫の取り込みが、マスクがない場合の7割程度に抑えられることも分かった。坪倉教授は「マスクはどんな素材でも着けることが大事。自分を守る上でも非常に効果がある」とした。

今回の中間報告は6月に続き2度目。マスクの性能比較のほか、4床の病室や学校の教室、2千人収容のホールといった屋内の効果的な換気、感染リスクの低減対策も公表した。

一方、屋内対策では、一定の換気がされた空間は、エアコンの併用で早く空気が入れ替わる▽教室で窓や扉を対角に開けると、エアコンの効率をあまり落とさずに換気できる」とした。

不織布マスクと手作り布マスク（ポリエステル、綿）で、せきをした際の飛沫の広がりや計算して比較した。布マスクのポリエステルはシート、綿はTシャツの生地をそれぞれ重ねずに縫製すると想定した。不織布は性能が高いが、隙間からの漏れは多めとい

は、床から1.4メートル程度座った人の頭より上の高さが最適で、高過ぎても局所的に換気の悪い場所ができ、逆効果になると指摘した。ホールは舞台と客席を2〜3メートル離し、客席の間隔を空けるなど、既に行われている対策が有効という。

「2番」でも出来ていたかもしれないが、その先に何をしたいのかがあっての研究結果の一番を目指していく、この日本の底力を誇りに思いたい。